

田上菊舎没後180年記念

菊舎が愛した七弦琴の調べ

共催 / 長府博物館友の会・菊舎顕彰会

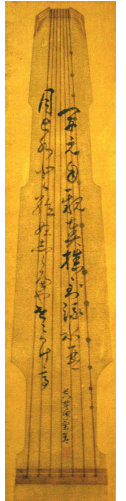
中国古琴演奏会

今年には下関が生んだ女流文人田上菊舎の没後180年にあたります。これを記念して菊舎がこよなく愛した七弦琴の演奏会を開催します。奏者は中国古琴の伝統をいまに引き継ぐ第一人者、姚公白氏(上海)です。七弦琴の生の音色をご堪能ください。

と き 平成18年7月23日(日) 午後2時～
と ころ 下関市長府黒門 長府庭園大広間(無料駐車場あり)
演奏会 聴講無料(長府庭園入園券は各自お求めください)

菊舎と七弦琴

菊舎41歳江戸再訪の折、木工屋作左衛門に七弦琴(銘:流水)を作ってもらい、薩摩藩士菊地東元に弹琴の手ほどきを受けた。のち、京都の中納言平松琴仙や伊勢の永田蘿道にも師事し、以後、74年の生涯を閉じるまで、片時も七弦琴を離さなかった。53歳では、長府藩主毛利元義から琴士の衣装・鶴氅裘(かくしょうきゅう)を拝領し、60歳では、奈良法隆寺の開元琴(現、東京国立博物館所蔵・国宝)の演奏を許され、南薰操一曲を奏した。



流水琴の図

七弦琴とは・・・

七弦琴は長さ約120cmの小型のもので、中国では古琴(クーチン)と呼ばれる。琴柱(ことじ)は立てず、左手の小指を除く四指で弦を押さえ、爪をはめない右手の指で爪弾き、演奏する。

日本には、奈良時代に伝わり、平安中期まで貴族の間で愛された。その後一旦すたれたが、延宝5(1677)年、日本に渡来した明の僧、東臯(とうこう)禅師によって再興され当時の知識人の嗜みとして広く奏されるようになった。近年、また中国や日本で多くの愛好家が現れ、のびやかな中にも微妙な音色を奏でる七弦琴に注目が集まる。



尼僧弹琴図

姚 公白

(ヤオ ゴンバイ)



1948年、中国浙江省杭州の生まれ。高名な古琴奏者で研究家でもある父、姚丙炎の厳格な指導を受け、その間、呉振平、張子謙の二大家にも教わる。上海華東師範大学を卒業。現在、上海旅遊学院で教鞭を執りながら中国民族管弦楽協会琴会常務理事を勤める。七弦琴の演奏はもとより、琴楽に関する研究活動を続け2003年、古琴音楽のユネスコ世界無形文化遺産登録に尽力した。1997年には日本のキングレコードが「中国の古琴」- 宮廷の旋律を録音。また、1990年のアジア芸術祭(香港)や2004年マカオ芸術祭に招かれたほか、上海テレビ、英国BBCラジオなど放送にも多数出演している。



CD 姚公白の古琴

お問い合わせは 菊舎顕彰会 (0837-83-0055) 長府博物館友の会 (0832-45-0555) まで